

地域とともにある

勢いのある学校

No. 18 (R2. 9. 24発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

素敵な挨拶

体育会系の学科で大学時代を過ごした私は、「挨拶」に関して、当時の先輩方から厳しい指導を受けてきました。自分が先輩を見つけたら、「どこであろうと」「相手が気付いていなくても」「相手がどんなに遠くても」「立ち止まって」「相手に聞こえる大きな声で」挨拶をする。しかも、その挨拶は「ちわっ」というなんともかっこ悪いものでした。しかし、これが、鉄則だったのです。今、考えてみると、少し滑稽な感じすら受けるルールです。しかし、もし、これを守らなかったことがわかると、後日先輩方から厳しい指導があるので、当時は切実な問題でした。大学内を歩いている時はもちろん、街中を歩いている時も先輩方の姿がないかと、気を張っていたのを覚えています。

強制された、なんともかっこ悪い私の大学時代の挨拶とは異なり、高木小の1年生には、とても「素敵な挨拶」してくれる児童がいます。廊下で出会うと、きちんと立ち止まり、こちらの顔を見て気を付けをした後、しっかりと頭を下げて「おはようございます」等の挨拶してくれるのです。廊下で、このような挨拶を受けると、とても温かい気持ちになります。

この挨拶は、その児童が一カ月ほど前から始めてくれたように思います。さらに、その挨拶を何度か褒めていたところ、本人が続けてくれるだけではなく、周りの子供たちも同じような挨拶をしてくれるようになったのです。また、その児童のお母さんとお会いする機会があったので「素敵な挨拶」をしていることをお伝えしました。お母さんとても嬉しそうにされていました。きっとご家庭でもまた褒められたことだろうと思います。もちろん、担任の先生にも伝えているので学級でも「挨拶名人」と呼ばれているそうです。

一人の児童の素晴らしい行動が、このような自然な流れで「素敵な挨拶」として高木小全体に広がってくれればと、かすかに願っているところです。

「挨拶」をどのように指導するかには、いろいろな考え方があると思います。中学校や高校では「校門一礼」という取組を行っている学校も多いようです。私のように、強制的に挨拶をすることを要求された経験をおもちの方もいらっしゃるでしょう。私は、どれもいい経験だと思っています。しかし、小学校時代の指導についてはあまり強制するものではないと考えています。大事なのは、「挨拶」の大切さや気持ちよさを感じることができ、自分なりの「素敵な挨拶」が身につくことだと思っています。

今回の話の中で「素敵な挨拶」をしているのは1年生の子どもたちです。しかし、学校全体に目を向けてみると皆ができていない状況ではありません。そこで、来月の生活目標を「気持ちの良い挨拶をしよう」とすることにしました。そして、教師による一方的な指導ではなく、児童会や各学級の主体的な取組を通して、「こんな挨拶が相手も自分も気持ちがいいんだ。」ということをしつづつ感じてもらえればと考えています。そして、このような経験を、6年間スパイラルに繰り返す中で、自分なりの「素敵な挨拶」を身に付けてくれたらと願っています。

そして、この考え方は、本校が学校として育むべき資質・能力の筆頭に示している「自律(立)」を育成することも視野に入れているのです。